

編集後記

本年5月の生産技術研究所発足30周年を記念して、30周年誌を刊行することになり、まず30周年誌編集委員会（委員長は久保慶三郎出版委員長、委員には各部から選出の本間禎一、小林敏雄、石塚 満、安井 至、高梨晃一の諸助教授・講師）がつくられ、小職が幹事の役を仰せつかった。正直のところ、前回20周年誌のお手本があるので、これに似せれば容易に編集できるのではあるなどと思っていた。ところが、この10年間にいろいろと大きく変わっていることが多くて、前回の編集方針を踏襲できないものもあり、やっかいな事に多々ぶかった。幸いに寺島出版掛長はじめ中島、飯塚、亀谷、木村、藤田の6人の協力がえられ、またチームの結束はきわめてよかったので、きっと良い本になって出版されるだろうと思っている。

編集で苦労したことがいくつかあった。記録の継続性と紙数の制約がその一つである。10周年誌が132ページ、20周年誌が218ページ、今回の30周年誌が280ページとなったことからわかるように、研究実績が10年ごとに、いかに多く蓄積されたかがわかる。編集作業も約6カ月かかったが、次回は1カ年ぐらいかかるであろう。

う。

座談会のとりまとめは最も苦勞したものの一つであった。速記録が出てからシナリオを作らねばならなかったことに加えて、先生方の短い話に長い話の整理、また行きつもどりつの進行等々難行苦行であった。

表紙につける航空写真の撮影もまた苦勞の一つであった。昭和53年度の予算で改修工事をしたので、すっかりきれいになってから写真をとりたいということになり、快晴の多いシーズンを逃してしまった。幸いにアジア航測株式会社の努力により五月初旬にきれいな写真がとれた。

大型研究についての原稿はそれぞれの研究グループに依頼して取りまとめてもらった、したがって大型研究の報告は各研究グループ名とし、執筆者の氏名は文末・文中に明記することにした。

最後に、編集委員会の委員長はじめ委員、諸先輩方および執筆担当者に謝意を表したい。特にこの本の印刷をしてくださった三美印刷株式会社は経費の上で並々ならぬご援助をしていただいた。謝意を表したい。

(幹事 村井俊治)